

<今回>209回目 2017年4月21(金)16時~18時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」244P 金印の倭人と銅鐸の東鯤人 より

<前回>208回目(17-4-10) 出席者8名

資料 17-04-10-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 聖徳太子の謎(清水)

-3) 翰苑東鯤人の読みについて(菅原)

A 報告

小松さんからお手紙をもらった。桜山古墳の見学会は雨のため中止。駅まで行った方がおられたが、また来春桜の時期にしようということになった。(釣り200円を渡さない人多数あり)

津多家で8名、14543円(1800・8)、-143円

B 資料 -2)横浜市泉区歴史の会の年1回の「郷土いずみ」への原稿。編集員たちは素養があり、よく読んでくれた形跡はあるが論に全面的に賛成ではないらしい。-3)菅原氏から東鯤人に読みについて翰苑の漢文を規則通りに読めば、東(はがし)鯤人と読めるとの資料をいただいた。鯤壑の東、鯤人は海中の州、鼈波に居る。俱に海に有り と読む。菅原氏もその説に賛意を示しているわけではないとして資料の扱いをまかせてくれた)

C 読書 p237 突然消えた2つの存在 先に読んだとしていたがまだ未読との指摘で読み直した。

1)後漢書の倭伝の項に 会稽海外東鯤人有り分れて20余国をなす。范曄は5世紀の時点の判断で、広い意味での倭の一部であると認識して、この文の挿入をした。(これは東鯤人の記事で東と区切る読みではない。倭人と一対の表現だから)魏から西晋の移行は禅譲であり、内部資料は安全に継承されている。

2)私はこう結論する。 翰苑という資料の蕃夷部三韓の冒頭に境は鯤壑に連なり地は鼈波に接す南は倭人に届きとある。(翰苑については資料3を参照、中国には現存せず、三〇巻目のみ太宰府天満宮に西高辻家より伝来)鼈波は三韓の東の海(東海)だから日本海という。「壑」はいわや、あなぐらの意から中国人は弥生期の堅穴、横穴住居の類ではないかと理解した。これが東鯤人の住居。

3)漢書地理志の呉地に記載されていることから日本海岸と太平洋岸にまたがる20余国を想定することができる。

4)歳時貢獻とは単なる気まぐれや趣味の問題ではない。優れて政治的軍事的な安全保障の問題である。大漢帝国の傘の下に入るという政治的行為だった。秦の大統一を経て大漢帝国は古代帝国の常として帝国主義的膨張を図るとき陸続きの三方の夷蛮の国々は絶えざる圧迫に苦しみ、歳時貢獻というような安定した政治関係にはない。日本列島は海を隔てているから歳時貢獻という安定した政治関係を早く定着させることができた。

5)二つの異なった政治・文化圏が別々のルート燕地、呉地を通じて歳時貢獻してきた。班固の東夷従順は倭人だけでなく東鯤人も含む表現だったのである。

6)まとめると①漢書地理志の倭人と東鯤人の歳時貢獻はワンセットの史料②中国正史の歳時貢獻は信憑性が高い、③東鯤人は少なくとも3世紀後半には中国史料から姿を消した。④この両者の史料事実から東鯤人は前漢から後漢(前2, 3世紀から3世紀)にかけて歳時貢獻して定期的にその存在を確認していた。東鯤人蒸発の時期は後漢滅亡の220年から西晋統一の280年の間にあり、銅鐸文化滅亡と対応している。⑤翰苑の三韓の東鯤人の記事もその帰結を裏付けている。

次回日程 17-5-8(月) 601号室と602号室 15時から18時

5-26(金) 16時~18時 1503号室

6-2(金) 16時から19時 1503号室

6-26(月)16時から18時 1503号室